

水戸市の歴史まちづくり

1. はじめに～水戸の歴史的資源～

水戸市は、東京から約100kmの距離にあり、茨城県のほぼ中央に位置しています。県都として、行政、文化などの都市機能を集積しながら発展してきましたが、その発展の源は江戸時代にあると言っても過言ではありません。

江戸時代の水戸は、御三家の一つである水戸徳川家が入封し、天下の副将軍・水戸藩のお膝元として、大きな発展を遂げました。昭和20年8月の大空襲により、水戸城をはじめとする建造物やまちなみは失われてしまいましたが、現在の道路区画は江戸時代の町割を継承しながら発展してきたため、中心市街地を歩くと往時の景観を窺うことが可能です。

歴史的資源も江戸時代のもものが多く現存しています。特に、我が国最大の藩校である弘道館と、日本三名園の一つである偕楽園は、日本遺産の第1号に認定され、本市を代表する観光地として、国内外から多くの観光客が訪れています。

2. 弘道館・水戸城跡周辺地区の歴史まちづくり

長い伝統と歴史に培われた先人からの遺産は、水戸のまちに大きなブランド力をもたらしています。本市では、これらを活用したまちづくりを強力に推進するため、平成22年2月、戦災にあった都市として初めて、歴史的風致維持向上計画の国の認定を受けました。

本市では、この計画のもと、さまざまな歴史まちづくり事業を推進していますが、ここでは、先導的に進めている弘道館・水戸城跡周辺地区の取

組みを紹介します。

弘道館・水戸城跡周辺地区は、水戸駅北口に面する水戸の玄関口に位置します。本地区の歴史的風致の特色は、弘道館はもとより、水戸彰考館跡、薬医門、義公生誕の地、北辰一刀流剣術、新田宮流技刀術、水府流水術など、水戸城に関連する有形・無形の歴史的資源が多数現存していることです。

こうした特徴を有する本地区について、歴史的な景観を再現していくことは、郷土愛の醸成はもとより、中心市街地の活性化を図っていくうえでも重要です。このため、本市では、地区の歴史まちづくりの基本理念を「水戸の顔にふさわしい天下の魁の精神を受け継ぐ歴史・文化交流拠点の形成」と定め、各種事業を展開しているところです。

3. 主な整備事業

主な整備事業として、二つの事業が挙げられます。一つ目は大手門・二の丸角櫓の復元整備事業です。これは、水戸城の重要な歴史的建造物である大手門と二の丸角櫓を在来工法によって復元し、地区のランドマークとするものです。現在、古写真や古絵図、発掘調査などの学術的検討を進める



図-1 大手門復元イメージ

水戸市長

たか はし やすし
高 橋 靖



とともに、文化財復元に精通した匠による設計作業を進めています（図-1）。さらには、応援団体である「旧水戸城大手門等復元整備促進実行委員会」により、募金制度「一枚瓦城主」が展開され、市民と行政が一体となって整備を推進していることも大きな特色です（写真-1）。

二つ目は歴史・観光ロード整備事業です。これは、「歴史・観光ロード」と呼ばれる歴史的な道路景観整備と、それに付随するモニュメント整備を推進する事業です。

道路景観整備としては、電線共同溝方式による無電柱化、土色系舗装の車道、白御影石調の歩道等、統一的なデザインを採用しています。また、モニュメント整備としては、杉山門や柵町坂下門の整備、地区の学校の塀を城壁風に改築する等、歴史



写真-1 一枚瓦城主募集チラシ



写真-2 景観に配慮した道路と柵町坂下門

的景観をより高める効果を創出しています（写真-2）。また、夜の水戸城の厳かな雰囲気を楽しみながら散策できるよう、ライトアップ照明を推進しています。

4. おわりに～魁のまち・水戸の風格あるまちづくりに向けて～

水戸の偉大な先人の一人、水戸藩第9代藩主・徳川斉昭公は、弘道館創建時に、自らの政治改革の姿勢を弘道館に咲く梅になぞらえ、「雪の下にあって、梅は先駆けとなって春を知らせる。人もまた、逆境の中から努力し、天下の魁とならねばならない」という意味の漢詩を詠んでいます。

私は、この魁の精神を受け継ぎ、県都、そして、水戸都市圏のリーダーとして、水戸ならではの個性と魅力を高め、にぎわいと交流を創出しながら、訪れてみたい、住んでみたいと思われるようなまちを築き上げてまいりたいと考えています。そのため、平成26年度に策定した水戸市第6次総合計画を「みと魁プラン」と銘打ち、魁のまち・水戸の風格あるまちづくりを力強く推進しています。

このようななか、4年後の平成31年には茨城国体が、その翌年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。この大きなイベントを間近に控え、本市では、ここで紹介した歴史まちづくりはもとより、歴史のまち・水戸のさらなるブランドイメージの向上に向けたさまざまな施策を総合的に推進しているところです。ぜひ、みなさんも水戸を訪れ、その魅力を体感していただきたいと思います。